

地域包括ケア病床への転換は病院運営に有利か？

～ケアミックス型脳・神経疾患専門病院における検討～

亀井 浩由¹⁾ 内田 智久²⁾ 三ツ倉 裕子³⁾ 美原 盤⁴⁾

1) 脳血管研究所附属美原記念病院 医事課

2) 同 医療情報室

3) 同 看護部

4) 同 院長

〔はじめに〕 28年度改定は病棟機能分化が推進され、7:1病棟の削減、地域包括ケア病床へ転換を促す意図が感じられ、ケアミックス型専門病院は病棟構成を戦略的に考えなくてはならない。そこで、7:1病棟、回復期病棟、障害者病棟の一部を地域包括ケア病床への転換させることについて検討した。

〔方法〕 転換病床数は、7:1病棟入院患者でポストアキュートとして対応すべき患者数、各病棟の病床利用率、看護師数の現状から推計した。さらに、回復期病棟および障害者病棟に当該病床を設置した際の収入を試算した。

〔結果〕 対象患者像は入院が長期化しやすい重症脳出血、誤嚥性肺炎を想定した。7:1病床は現状を維持し、回復期あるいは障害者病棟の6床を転換することが妥当と推計された。回復期病棟に設置した場合、年間収益は500万円増、障害者病棟では660万円増と試算された。

〔結論〕 当院において一部を地域包括ケア病床への転換は検討に値する。